

産学連携によるリカレント・プログラム数の抜本的増加と全国展開

大学等

- ・ **産業界からのニーズ等を踏まえプログラムを開発**し、地域に偏在がないよう**全国展開** (AI・IT分野をはじめ、IoTを活用したものづくり、経営管理、農業、看護、保育、企業インターンシップを取り入れた女性の復職支援等)
- ・ **20程度のプログラムを先行開発**し、**全国の拠点となる大学で実施** (学会との連携による技術者向けプログラムや、オンラインプログラム等も含む)
- ・ プログラム修了者に認定証を授与 (学修成果の「見える化」)

産業界との協議の場等
を活用し協力依頼

リカレント教育に関するニーズが明確な分野
(及びそのレベル)の提示

企業側

- ・ プログラム作成・実施への協力、実務家教員の派遣、学生となる社員等への履修支援奨励 等
- ・ 修了認定証の評価と活用

短期かつ魅力的なプログラムの開発を促進するための制度改善 (職業実践的な短期プログラム (BP) (※) の質保証/対象拡充)

(※) 大学・短大における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定

- プログラム作成への**産業界の参画促進** / **修得できる知識・技能の内容等の公表推進**
- 現行の120時間以上から**「60時間以上」の短期プログラムを認定対象に**
- これらを推進するための**履修証明制度の見直し**、**単位累積加算制度の利用促進**

多様なニーズに応じた社会人の学び直し(リカレント教育)の推進

実践的な教育を行える人材の確保

実務家教員対象の研修

- (先述の) リカレント・プログラムの実施大学で、実務家教員の**教育能力育成プログラムを開発**
- 当該プログラムを開発・実施する大学だけでなく、**全国で受講が可能な仕組みを整備**
- 教員採用に当たり、当該プログラムの受講を推進
- 当該プログラムをBPとして文部科学大臣が認定することも想定

実務家教員の人材共有プラットフォーム

- 教育能力育成プログラムの**修了者の情報** (専門性・技能等) **を登録する仕組みを整備**
- 大学と産業界との連携に実績のある機関のもと、実務家教員の人材共有プラットフォームを管理運営
- 企業は、社員が業務の一環又は副業として大学等で指導に当たることを奨励

放送大学、MOOC等における実務型オンライン講座の大幅拡充

放送大学による実践的なプログラムの提供

- ① **業界団体、学協会等と連携し、実務型科目を大幅拡充**
(連携例) データサイエンス、サイバーセキュリティ等の授業科目を平成30年度から順次開講
(統計数理研究所、滋賀大学、筑波大学等と協力)
- ② **蓄積した過去の授業科目を社会人の多様な学習ニーズに合わせ全国へ提供**

オンライン科目を
100科目程度
へ拡充(4倍増)

他大学、学協会、MOOCの取組への連携・技術的支援

大学等におけるリカレント教育拡充の今後の方向性

【参考】平成30年3月23日
人生100年時代構想会議(第6回)
林 文部科学大臣提出資料抜粋

1. リカレント・プログラムの供給拡充

多様な教育プログラムの開発・実施

学習方法の多様化

【現状認識】

- プログラムの総数が少ない。
- 多くのプログラムは大都市圏で開講されており、地域的な偏りがある。
- 内容として実践的なものが少ない。

【検討の方向性】

- **産学連携の教育プログラム**の作成、実施の抜本的な増加により**全国展開**。
- 短期かつ魅力的なプログラムの開発を促進するための**制度の改善**
 - ① 職業実践的な短期プログラムの**質保証と対象拡充**等
＜プログラム作成への産業界の参画促進などの**質保証**、**短期プログラムの対象化**等＞
 - ② **履修証明制度**の見直し、**単位累積加算制度**の利用促進 等
- 放送大学、MOOC等における**実務型オンライン講座の大幅拡充**

2. 実践的な教育を行える人材の確保

多様な教育プログラムの開発・実施

【現状認識】

- プログラムを企画・実施できる教員の確保が課題。
- 「実務家教員」は学生への教育経験が少ない。
- 現役の実務家は時間を捻出するのが困難。
- 個々の大学での「実務家教員」確保は困難。

【検討の方向性】

- 大学等での教育経験のない者に対しては、研修を義務づけることにより、実務家教員の指導力を向上 (**質の確保**)。＜**研修プログラムの開発・受講促進**＞
- プログラムの実施に必要な実務家教員を円滑かつ容易に確保できる仕組みの整備 (**量の確保**)。＜**人材共有のためのプラットフォームの創設**＞
- 最先端で活躍している実務家が指導しやすい環境の整備。

3. 受講しやすい環境の整備

教育効果の見える化

【現状認識】

- リカレント教育の認知度、切迫感が低い。
- リカレント教育に参加する時間・費用の捻出が困難。
- 学んだ成果が見えにくく、企業等で評価されない。

【検討の方向性】

- 学んだ**効果の見える化**。＜習得できる知識・技能等、**質保証の要件の明確化**＞
- リカレント教育関連の情報に接する機会の拡大。
- 経済的コストの軽減。＜**雇用保険制度・税制等との連携**＞



4. これらを支える機運醸成

- ① **産業界におけるプログラムの開発・実施への参画**
- ② **社会人の学びの積極的な支援・評価**
- ③ **離職女性のキャリア形成への意識の醸成**